

## ACCESS MAP



	車	① JR仙台駅から 国道286号を「山形方面」へ 約20分 ② 仙台南ICから 国道286号を「ゆりが丘」へ 約5分		高速道路
	バス	① JR仙台駅 西口バスプール8番のりば 約40分 ② 地下鉄長町南駅 3番のりば 約15分 【宮城交通】尚綱学院大前行 ③ JR南仙台駅 西口のりば 約15分		JR線
	空路	仙台空港アクセス鉄道を利用 「南仙台駅」下車、宮城交通バス乗り換え 約30分		仙台市営地下鉄
				尚綱学院大前行バスのりば

## 沿革

1890/明治23年 米国の宣教師ラヴィニア・ミードが来仙し、新坂通りに家塾を開く。  
 1892/明治25年 「尚綱女学会」開校式。アニー・S・プゼル来仙。  
 1896/明治29年 校舎と寄宿舎(エラ・オー・パトリックホーム)が落成。  
 1899/明治32年 私立学校令により「私立尚綱女学校」設立が許可。プゼルが初代校長となる。  
 1902/明治35年 校章を制定。  
 1903/明治36年 「同窓会」が発足。  
 1917/大正 6年 校歌(土井院翠作詞、佐々木英作曲)と校旗を制定。  
 1920/大正 9年 3年制の高等科(英文科、家事科)を開設。  
 1942/昭和17年 「財団法人仙台尚綱女学校」を設立。校名を「仙台尚綱女学校」と改称。  
 1943/昭和18年 校名を「仙台尚綱高等女学校」と改称。  
 1947/昭和22年 学制改革により新制中学校を設置。  
 1948/昭和23年 新制高等学校を設置。校名を「尚綱女学院」と改称。  
 1950/昭和25年 専攻部を母体として短期大学(家政科、英語科)を開設。  
 1951/昭和26年 財団法人を「学校法人」に組織変更。  
 1955/昭和30年 短大に保育科を開設。  
 1956/昭和31年 幼稚園を開園。  
 1960/昭和35年 「尚綱女学院後援会」が設立。  
 1964/昭和39年 短大家政科を食物栄養専攻・家政専攻に分離。保育専攻科を設置。  
 1967/昭和42年 短大に英文科を開設。  
 1989/平成 元年 短大が名取市(現名取キャンパス)に移転し、人間関係科を新設。  
 1992/平成 4年 創立100周年記念式典を行う。  
 1994/平成 6年 専攻科に食物栄養専攻を増設。  
 1995/平成 7年 専攻科に生活科学専攻を増設。  
 米国のセントラルワシントン大学、イースタンワシントン大学、モンタナ大学への留学と単位振替制度が確立。  
 1998/平成10年 大韓民国「イサベル中学・高等学校」との姉妹校調印。  
 2000/平成12年 短大附属幼稚園が名取キャンパスに移転。  
 2002/平成14年 名取市と「文化・産業事業支援に関する協定書」を調印。  
 尚綱学院大学開学。尚綱学院大学総合人間科学部開設。法人名を「尚綱学院」、校名を「尚綱学院大学女子短期大学部」、「尚綱学院女子高等学校」、「尚綱学院女子中学校」、「尚綱学院大学女子短期大学部附属幼稚園」と改称。  
 タイ国「サハミット学園」との姉妹校調印。  
 2004/平成16年 学院歌(佐藤通雅作詞、今井邦男作曲)を制定。  
 米国「シャドソン大学」との姉妹校調印。  
 2007/平成19年 表現文化学科、現代社会学科、生活環境学科、大学院総合人間科学研究科を開設。  
 2008/平成20年 中学・高校男女共学化。校名を「尚綱学院高等学校」、「尚綱学院中学校」と改称。  
 2009/平成21年 大学図書館棟、実習棟竣工。

## 学校法人尚綱学院

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

Tel 022-381-3333 Fax 022-381-3335 E-mail kikaku@shokei.ac.jp

<http://ap.shokei.jp/>



SHOKEI GAKUIN  
ACADEMIC  
JURIDICAL PERSON

2010法人案内

学校法人尚綱学院

# 培ってきた伝統を大きく花開かせ 新しい時代を拓く学院づくりに邁進しています。

本学院は1892年の創設以来、キリスト教を土台に「衣錦尚綱」の精神により女性教育に努めてまいりました。2003年には男女共学の4年制大学を開設し、2007年には学科を5学科に増設するとともに大学院を設置、さらに2008年には中学校・高等学校での男女共学をスタートさせるなど、幼稚園から大学院までを有する総合学院へと成長・進化を遂げています。

現代の日本社会は技術的な面での生活の基盤は整ったといえます。しかしその一方では格差や環境問題、少子化や高齢化社会の進行、経済状況の激しい変化、人々の価値観の多様化・複雑化など、様々な問題を生み出しているのも事実です。本学院ではこれまで、自分よりも大きな存在を知り、愛を持って、自己を見つめ、隣人を見つめ、社会の中で「他者とともに生きる」ための教育を実践してきました。地球環境や国際社会の状況を含め、今このような時代だからこそ隣人や環境とどう向かい合い接していくのか、心豊かな共生をどう実現していくのかなど、“人間”を中心に据えた本学院の教育が担う役割の大きさを実感しています。

そうした背景を踏まえ、本学院では今、2010年に伝統ある女子短期大学部「保育科」の4年制「子ども学科」（設置申請中）への再編成をはじめ、中学校では中高6年間の視点で人間力と受験力をしっかりと育む新たな教育プログラムの導入、高等学校では国公立大学や難関私立大学、個々の目標や適性にあった専門性の高い分野などへと力強く導く、新コース制による支援体制と学習環境整備などが着実に進んでいます。

また高等学校と大学の緻密に計画された連携教育の推進、名取市をはじめとする地域との交流活動や社会貢献など、この他にも教育機関として地域や時代の要請に応えるべく、実にさまざまな取り組みを積極的に進めています。

これら本学院の数々の教育プログラムの改革を推し進めるために、施設環境面の整備・拡充も進んでいます。大学の学科増設に伴う新しい大学図書館の建設、男女共学や新しい教育プログラムに対応するための中高体育館の整備、建学の精神や尚綱の歴史を受継ぎ伝えるためのエラ・オー・パトリックホームの移築・復元などの施設環境の整備に加え、尚綱創設のころの思いを甦らせるアニー・S・ブゼル初代校長の愛用の品の修復計画もスタートしました。

その他にも学生・生徒たちの成長に繋がる次なる構想が控えています。今後も本学院はこれまで培ってきた建学の精神と伝統を受継ぎながら、さらに充実した教育プログラム、教育環境を整えていくとともに“人間”を中心に据えた教育で、どんな激しい時代の中でも力強く能力を発揮できる、今の社会、そしてこれからの社会に求められる人材の育成を推し進めてまいります。新しい時代を拓いていくこれからの尚綱学院にご期待ください。

## 理事長・学院長 加藤正名

学歴◎東北大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程・博士課程修了工学博士  
経歴◎1982年4月東北大学工学部精密工学科教授、秋田県立大学システム科学技術学部教授、東北大学名誉教授、秋田県立大学名誉教授、中国重慶大学名誉教授  
2008年4月学校法人尚綱学院理事長就任  
2009年4月学校法人尚綱学院学院長就任

## ■建学の精神

尚綱学院は、1892年アメリカ合衆国のバプテスト派婦人外国伝導協会から派遣された女性宣教師たちによって「尚綱女学会」として創設されました。わずか9名の生徒で出発した尚綱女学会は、校名の出典ともなった中国の儒教の書『中庸』の一節「衣錦尚綱」と、『新約聖書 ペトロの手紙I』第3章3節～4節の言葉に示された人間のあり方を、健学の精神としました。

## ◎『衣錦尚綱』～詩曰、衣錦尚綱、悪其文之著也～

中国の「礼記」の編章である古典『中庸』の一節です。金や銀、色鮮やかな糸で織られた美しい着物を着ていたとしても、それを見

せびらかせて驕るのではなく、その上に質素な麻の打ち掛けをまとい、錦のきらびやかさをつつましく被うという君子の道を説いた言葉です。

## ◎「ペトロの手紙I 第3章3節～4節」

建学の精神を表わすもうひとつの言葉は、聖書の中にあります。「あなたがたの装いは、編んだ髪や金の飾り、あるいは派手な衣服といった外面的なものであってはなりません。むしろそれは、柔和でしとやかな気立てという朽ちないもので飾られた、内面的な人柄であるべきです。このような装いこそ、神の御前でまことに価値があるのです。」

尚綱学院の教育はこれらの言葉に導かれた建学の精神に基づき、内面を豊かに飾り、謙遜の心を持って他者と共に生き、社会に貢献する人間の育成を目的にスタートしました。その想いは117年たった今も受け継がれ、より大きな想いとなり、尚綱学院の教育の土台となっています。

## ■校名の由来

校名は、建学の精神にもなった「衣錦尚綱」（『中庸』33章）に由来します。「詩に曰く、錦を衣(ぎ)て綱(けい)を尚(くわ)うと。其の文の著(あらわ)るるを悪(にくむ)なり」というこの言葉は、もともとは『詩経』にあった「衣錦褻衣」から来ていると言われています。1892年9月頃に制定されたと推測されるこの校名は、当初「綱」ではなく「綱」の字を用いていましたが、1943年に出版の中庸の通り、「尚綱」と改められました。

## ■教育目標

キリスト教を土台に、人間のあり方を探り、他者とともに生きる。

# 新しい時代にふさわしい、教育改革を推進。

## 大学・大学院・短期大学



学長 佐々木 公明

東北大学教授、東北大学大学院情報科学研究科長を経て2008年4月より学長に就任。その間米国ペンシルバニア大学、英国オックスフォード大学、米国イリノイ大学で都市・地域科学を研究。経済学博士および学術博士。現在、日本学術会議連携会員、日本都市学会会長、早稲田大学客員教授、東北大学名誉教授。

### 短大保育科を発展させ、子ども学科を新設。

伝統ある短大保育科は2010年度から男女共学4年制の「子ども学科(申請中)」に再編成されます。4年制になることで子どもの成長・発展をより深く、より総合的に学ぶことができるようになり、将来、保育・教育分野で活躍、力を発揮できる人材の育成を目指します。また本学は教育の柱にキリスト教精神を置いています。とりわけ子ども学科ではこの精神が強く反映され、「子ども」に対して深い愛情を注ぐ人を育てられるものと自負しております。

4年間で、心理学、教育学、保育学に加え、子どもに関連する社会科学、人文科学、自然科学、社会福祉学、芸術などを学びます。卒業時には保育士、幼稚園教諭1種に加え、小学校教諭1種の資格が取得可能ですので、卒業後の進路は幅の広い選択が可能となるのも子ども学科の特徴です。

### 子どもの目線で支援できるよう4つの専門領域を学ぶ。

短大保育科時代と比べ子ども学科は、4年間という豊富な時間と少人数教育体制を最大限に活かした、はるかに深い学びが可能です。4つの専門領域(子どもの心理と健康、子どもの保育と教育、子どもの福祉、子どもの文化と社会)を学ぶことで、子どもに対する高いレベルの理論と実践力を身につけることができます。またそれらの力を習得するための、多様な学びが可能である豊かな学習環境が用意されています。

子ども一人ひとりの目線に立つことができ、子ども同士が豊かに育ち合えるように支援できる。子ども学科は、そのような人材の育成を目指します。

#### 4つの専門領域

##### 「子どもの心理と健康」

子どもの身体と心の発達やその成長段階に対応した支援について学びます。

##### 「子どもの保育と教育」

子どもの発達に不可欠な保育と教育の目的・方法・内容について、理論と実践から学びます。

##### 「子どもの福祉」

子ども及び家庭・地域・社会における福祉の現状や課題、あり方について学びます。

##### 「子どもの文化と社会」

子どもの感性や情緒の発達に文化や社会環境が果たす役割について学びます。

#### 取得可能な資格(予定)

- 保育士
- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状

## 中学校・高等学校



校長 佐藤 信義

### 中学校 人間力と学力の基礎を身に付ける。

新しい知識や技能をしっかりと身に付けていくことはとても大切なことです。しかし、これだけに終始するならば受身的な学習に堕してしまい、自ら創造的な働きを進めたり世の中の様々な課題に立ち向かう力を備えることはできません。中学校では、本校の「中高一貫教育」という最大の特徴を活かし、豊富な授業時間をフルに活用した独自の学習プログラムを導入。人間力と学力の基礎をしっかりと身に付け、個々の夢を育む丁寧な教育を行っています。

### 高等学校 人間力と受験力を“共育”する。

これからの時代・社会にあっては、身につけた知識や技能を活用する「思考力」や「応用力」、さらには社会の変化や進歩に合わせて新しいことを学び続ける「学習力」が求められます。高等学校では、「特別進学コース」と「総合進学コース(文理)(文系)」の二つの進学コース制で、人間力と受験力を“共育”する独自の教育プログラムを実践しながら、3年間という限られた時間で、より高い目標の達成を目指す指導体制と学習環境を整え、生徒一人ひとりを確実にサポートします。

## 幼稚園



園長 岩倉 政城  
尚綱学院大学女子短期大学部教授。  
前東北大学歯学部助教授・歯学博士。

### 「尚綱学院大学附属幼稚園」に名称変更。

1919年に附属尚綱幼稚園として開設された本幼稚園は、1982年より短期大学部の附属幼稚園として新たな歩みを始めました。2010年、4年制子ども学科開設に伴い、本幼稚園は短大部附属から大学附属へと変更、名称も「尚綱学院大学附属幼稚園」へと変わります。4年制の子ども学科との連携で、より専門性の高い幼稚園教育が可能となり、園児たちはもちろん、保護者の皆様のお役にもたてるものと考えております。

### 食育を考えて週1回の給食実施。

2009年度より障害者通所授産施設「ぼっけの森」をパートナーに、週1回の給食を行っています。お弁当と給食の両方の良さを食育の面からもしっかりととらえ、お弁当の愛情、給食の栄養バランスと皆で同じものを食べる喜びをともに園児に伝えていきます。アレルギーのある子様にも、可能な限りの対応に努めています。

## 尚綱学院大学大学院

高度な専門的職業人の育成を目指し、専門的・実践的な知識と技術を教授します。



- 心理学専攻(修士課程)
- 健康栄養科学専攻(修士課程)

## 尚綱学院大学

子ども学科(申請中)を加え全6学科体制で、より高度な教育・研究を展開します。



- 総合人間科学部
- 表現化学学科
- 人間心理学科
- 子ども学科(申請中)
- 現代社会学科
- 生活環境学科
- 健康栄養学科

## 尚綱学院大学女子短期大学部

新たな“子どもの時代”に応えるため、2010年度より子ども学科に再編されます。



- 保育科
- 専攻科 保育専攻

## 尚綱学院高等学校

2つのコース制の導入で、個々のより高い目標達成をサポートします。



- 特別進学コース(共学)
- 総合進学コース【文理】(共学)
- 総合進学コース【文系】(女子)

## 尚綱学院中学校(共学)

6年間の一貫教育で能力と個性を見出し、高い学力を育てます。



## 尚綱学院大学 女子短期大学部 附属幼稚園

自由な遊びを大切に、考える力の成長を支援しています。



- 年少組(3歳児)
- 年中組(4歳児)
- 年長組(5歳児)

# 教育環境のさらなる充実と、建学の精神の継承。

本学院は、学生や生徒にとってより満足度の高い、高度な教育機関となるべく、教育環境の充実に努めています。またこれまで実践し続けてきたキリスト教の精神に基づく人間教育を受け継ぎ伝えるために、建学の頃の建物や品々の復元・修復にも取り組んでいます。

## 大学図書館「almo(アルモ)」開館。



自然との調和を考慮して設計された新大学図書館の外観デザイン

2009年9月、尚絅学院大学の新しい図書館「愛称：almo(アルモ)」が開館します。「図書館は知の共働空間～コラボレーション～」をコンセプトに設計され、機能・設備、外観まで他の図書館にはない独創的かつ機能的な図書館となります。外観は、周囲の自然との調和を図ったシンプルかつ個性的なデザインで、内部空間は3つのC(Collaboration, Communication, Concentration)をテーマに設計され、2階アプローチから1階の奥に進むに従って徐々に静かな空間へと移行する構成となっています。

2階は、雑誌や絵本、AV・コミック、ブラウジングなど個性的な4つのアイランドコーナーからなり、友人と交流したり、リフレッシュできるコミュニケーションの空間です。蔵書が並ぶ1階は、開架スペースのほか、閲覧席や集中して学習できるようコンセントレーションをテーマとした学習室を設けています。それぞれのCが有機的に連携できるように配置された図書館は、知を媒介としたコミュニケーションの場として、学生・教職員に限らず広く市民の方も利用可能な、新たなアカデミック・コミュニティになります。

**3C**  
**Collaboration** コラボレーション  
 共同でディスカッションできる個室(コラキューブ)やグループ学習室など。

**Communication** コミュニケーション  
 AVコーナーやブラウジングコーナーなど4つの島(アイランド)を配置し、インナープロムナードで島をつなぐ。仲間との気軽な交流やリフレッシュ空間として。

**Concentration** コンセントレーション  
 個人の学習・レポート作成ができる閲覧席やより集中できる静粛な学習室。



インナープロムナードが印象的な内観

概要
延床面積: 2,343.37㎡
構造: RC造+木造
建物高さ: 軒高8.9m(地上2階)
席数: 約200席
収容冊数: 200,000冊
※バリアフリートイレ、エレベータ1基
特徴
個室閲覧室「コラキューブ」4室
グループ学習室、ディスカバリーラウンジ
ブラウジングコーナー、絵本コーナー
雑誌閲覧コーナー、AVコーナー
インナープロムナード(回廊)など

## 2010年秋、名取キャンパスにエラ・オー・パトリックホームを復元。

本学院を象徴する建物エラ・オー・パトリックホームは、建学まもない1896年(明治29年)、仙台市青葉区広瀬町(現在の中学校・高等学校)の地に本学院最初の建物として竣工し、築112年の歴史を刻んだ貴重な明治の洋風建築物です。検討を重ねた結果、名取キャンパスに移築復元することになり、2008年に解体を完了しました。

復元にあたっては可能な限り「建築当時」の形を尊重し、解体前・解体後の調査に基づき、建材として再使用できる部材は活用することにしました。復元時に使用できないものでも、資料的な価値があると判断した部材に関しては保存管理し、復元後の施設内での展示を検討しています。

入母屋瓦造りの棟飾り、玄関ポーチ下の雷門や唐草彫りの持送、2階バルコニー軒の雲形状レリーフほか、日本人職人の手による伝統的な装飾についても忠実に復元し、2010年11月、エラ・オー・パトリックホームは本学院の教育の原点を現すモニュメントとして、新たな歴史を刻み始めます。



建設間もない頃のエラ・オー・パトリックホーム

## ブゼル所縁の品の修復計画。



寄贈いただいたリードオルガン



初代校長 アニー・S・ブゼル

初代校長であるアニー・S・ブゼル(1866-1936)は本学院の建学期を支え、尚絅を発展させた宣教師です。その教えは建学の精神に基づいた先見的なものであり、その影響は学内にとどまらず、バイブルクラスで教えを受け、後に大正デモクラシーの理論的指導者となった吉野作造らにも及ぼしました。

2008年にブゼルが愛用したオルガンや蓄音機といった品々の寄贈を受け、これをきっかけとして、ブゼル愛用の品の修復計画が立ち上がり、2009年より数年をかけて修復を行うこととなりました。2009年度は100年を超えた愛用のリードオルガンを修復します。専門家の診断の結果、修復には時間がかかるものの、明治の音色を完全に甦らせることができるそうです。2010年の春に完了し、同年秋にお披露目の予定です。その後は、一人でも多くの方々にその音色を聴いていただくための企画を検討していきます。

## 本学院と社会との交流

- 大学  
 〈授業〉 毎年一地域をプロデュースする表現文化学科の「メディアフェスタ」や、エコを推進する「Eco de スマイルコンテスト」への生活環境学科の協力など、授業の一環として各学科独自の社会との交流、連携プログラムを展開。  
 〈尚絅学院大学生涯学習センター開設〉 生涯学習センターを名取市増田に開設。大学の持つ学術的な文化資産を駆使し、さまざまな生涯学習講座を開講。
- 高等学校・中学校  
 病院や老人ホームを訪問するなど、さまざまなキリスト教教育行事で社会と交流。また、韓国・タイの姉妹校と国際交流プログラムを展開。チャリティコンサートなどにも発展。

## 高大連携の取り組み

- 本学院では、高等学校と大学・短期大学部との連携を一貫教育の柱に、新しい教育体制の構築に取り組んでいます。
1. 継続した体系的教育プログラム
    - 大学教員による高校での出前授業
    - 中高教員による大学での出前授業
    - 大学・高校間教育交流制度(高校生が大学で授業を受け、高校・大学双方の単位として取り扱います)等
  2. 社会貢献能力を培う多様な学習機会の提供
    - 中高の国際交流プログラムに大学生も協力
    - 高大一貫部活動支援 等
- 高大連携会議により連携プログラムを検討、強化を行っています。今後も双方方向型の高大連携を推進し、教育・研究の充実を図ってまいります。

## 建設整備事業募金

本学院では施設の整備・拡充を計画し、工事を進めています。皆様にも昨年度よりこの整備事業に伴う資金の募金をお願いしてまいりました。ご協力をいただきました皆様には、厚く御礼申し上げます。

この建設整備事業募金は、大学の学科拡充に伴う「大学図書館建設」、中高男女共学化に伴う「中高体育館整備」、尚絅の精神を伝えるための「エラ・オー・パトリックホーム移築復元」を目的としたものです。必要事業費総額8億円のうち2億円を募金事業とし、皆様からのご協力とご支援に頼らなければなりません。安全で高度な教育を行い、学生・生徒・園児の未来をよりしっかりとしたものとするために必要不可欠な教育施設です。皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

<p>◆大学図書館建設</p> <p>9月開館予定で順調に工事が進んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設事業費: 600,000,000円</li> <li>・募金目標額: 130,000,000円</li> </ul> <p>◆中高体育館整備</p> <p>6月中旬より工事が始まっています</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画事業費: 150,000,000円</li> <li>・募金目標額: 35,000,000円</li> </ul> <p>◆エラ・オー・パトリックホーム移築</p> <p>昨年解体し部材を保管。本年設計し、2010年建設・完成予定です</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設事業費: 70,000,000円</li> <li>・募金目標額: 35,000,000円</li> </ul>	<p>◆募金報告</p> <p>目標総額: 200,000,000円</p> <p>募金総額: 47,506,176円(6月12日現在)</p> <p>募金件数: 751件(6月12日現在)</p> <p>ホームページ上に募金報告を掲出し、報告内に募金いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。</p> <p>尚絅学院で検索→建設整備事業募金をクリック</p> <p>アドレス: <a href="http://ap.shokei.jp/bokin/">http://ap.shokei.jp/bokin/</a></p> <p>連絡・問い合わせ先 法人事務局募金事務室</p> <p>TEL: 022-381-3334 FAX: 022-381-3335</p> <p>Mail: <a href="mailto:bokin@shokei.ac.jp">bokin@shokei.ac.jp</a></p>
---	---